

令和元年6月23日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02180

研究課題名(和文) 拡張された自然神学の具体化としての「科学技術の神学」 東アジアの文脈で

研究課題名(英文) Theology of technology as an embodiment of extended natural theology: in the context of East Asia

研究代表者

芦名 定道 (Ashina, Sadamichi)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：20201890

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、拡張された自然神学を、科学技術と東アジアという二つの文脈で具体化するという研究目的にむけて進められてきた。

まず、科学技術の文脈。特に、原子力、脳科学、AI、遺伝子工学といった現代において問題化しつつある諸問題について、宗教思想(特にキリスト教思想)との接点(人間理解(人格概念)にある点)が明らかになった。科学技術の神学においては倫理学から文明論までがその射程に入れられねばならない。

次に、東アジアの文脈。その成果は、『東アジア・キリスト教研究とその射程』としてまとめられた。無教会キリスト教、特に矢内原忠雄の原子力論において、科学技術と東アジアの二つの文脈を結びつける可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、「科学技術の神学」に向けた理論構築を行い、特に、「脳神経科学」「生命科学」に関する具体的な考察を行った。また、東アジアのキリスト教については、これまでの研究成果を論集として刊行したが、日本のキリスト教と原子力問題の関わりを取り下げることができたことは、学術的成果にとどまらず、社会的にも意義あることであったと思われる。

これらの成果によって、科学技術が宗教研究の重要テーマであるに止まらず、現代日本においてわたしたちが共有する課題(科学技術を基盤とした文明をいかに構築するか)にも密接に関わっていることが示された。

研究成果の概要(英文)：This research has been carried out for the purpose of actualizing the extended natural theology in two contexts of science and technology and East Asia.

First, the context of science and technology. In particular, it became clear that there is a point in the understanding of humanity (personality concept) in connection with religious thought (especially Christian thought) about various problems that are becoming problematic in modern times such as nuclear power, brain science, AI, and genetic engineering. This means that theology of science and technology goes from ethics to civilization in scope.

Second, the context of East Asia. The results are summarized as "East Asia / Christian Studies and Their Scope". About "Mukyokai" Christianity, in particular Tadao Yanaihara's thought of nuclear energy, it has been shown that it is possible to link the two contexts of science/technology and East Asia.

研究分野：宗教学

キーワード：科学技術 自然神学 東アジアのキリスト教 無教会キリスト教 遺伝子工学 脳科学 原子力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代キリスト教思想は多岐にわたっており一見混沌として様相を呈しているものの、この動向(特に1980年代以降)を詳細に分析するとき、次の二つの中心問題を確認することができる。

1. キリスト教と科学技術(自然科学が担う近代的合理性と技術的革新)との関わり

2. 多元的社会におけるキリスト教の課題・意義(公正・正義に対するキリスト教の寄与)

現代のキリスト教思想をリードする思想家たちは、それぞれの思想的立場は異なるにもかかわらず、ほとんど例外なく、これらの問題を意識しつつ思索を進めている。これら二つの問題は相互に無関係に位置づけ得るものではなく、むしろ緊密な結びつきにおいて考察されねばならないことが、国内と海外を問わず、研究者の共通認識となりつつある。現代の科学技術の問題が社会的正義の問いと無関係であり得ないことは、後に述べるように、環境と経済が分離不可能な問題群を構成していることから、明らかである。本研究は、現代キリスト教思想もちろん、現代キリスト教思想だけではないが、が直面するこの問題状況に対して、伝統的な自然神学を社会科学との関わりにおいて再構築することによってアプローチすることを目指している。その際に、東アジアのキリスト教思想の動向を参照しつつ、研究は進められる。

2. 研究の目的

これまで本研究の申請者は、現代の思想的状況におけるキリスト教思想の多様な動向を視野に入れつつ、社会科学(とくに、経済学と政治学)との関連で自然神学の理論的な再構築(拡張)を試みてきた。それは、自然神学が、古代以来、各時代の知的状況に即応しつつ、キリスト教思想と他の諸思想(諸科学)との創造的な関わり合いのために必要な理論的基盤(コミュニケーション合理性)の構築を担ってきたとの認識に基づいている。本研究は、こうした先行研究によって理論的に拡張された自然神学を、現代の思想状況において、特に科学技術論と東アジアの文脈において具体化することをめざしている。それは環境や経済をめぐる現代の深刻な危機的状況(環境危機と経済危機、東日本大震災以降の原子力をめぐる問題状況)に対して、宗教・キリスト教が蓄積してきた伝統的な知恵を、有意義な仕方で再提示することを目指すためであり、ここに本研究計画の独自性がある。

3. 研究の方法

本研究では、文献収集(主に1990年以降のキリスト教思想における、科学技術論や社会思想などに関連した諸文献購入、国内外での調査に際しての文献収集)と国内外での研究調査によって、議論の基礎となる情報を収集した。その際に、中国語・韓国語による重要な文献は、京都大学キリスト教専修に所属の中国人と韓国人の留学生などを学生アルバイトして雇用し、翻訳を行い、資料集を作成した。

この文献収集と並行して実施されるのは、収集された資料を集中的に精読分析することである。特に、原子力と環境論、生命科学、脳科学に関連したキリスト教思想の全貌を可能な限り明確な仕方で分析し、これによって得られるキリスト教思想の枠組みに基づいて、本研究の研究申請者がこれまでに行ってきたキリスト教自然神学研究を、本研究計画に即して深化することが試みられた。

研究成果は、国内における共同研究(南山大学宗教文化研究所で行われていた「科学と宗教の対話」プロジェクト、あるいは宗教倫理学会・研究プロジェクト)において、あるいは海外研究者との研究討論を積極的に実施した。

4. 研究成果

本研究は、拡張された自然神学を、科学技術と東アジアという二つの文脈で具体化するという研究目的にむけて進められてきた。

まず、科学技術の文脈。特に、原子力、脳科学、AI、遺伝子工学といった現代において問題化しつつある諸問題について、宗教思想（特にキリスト教思想）との接点人間理解（人格概念）にある点が明らかになった。これは、科学技術の神学が倫理学から文明論を射程に入れることを意味する。

次に、東アジアの文脈。その成果は、『東アジア・キリスト教研究とその射程』としてまとめられた。無教会キリスト教、特に矢内原忠雄の原子力論において、科学技術と東アジアの二つの文脈を結びつける可能性が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計15件)

1. 芦名定道、「南原繁の政治哲学とその射程」、『日本哲学史研究』、第13号、2017、33-58

<http://www.nihontetsugaku-philosophie-japonaise.jp/>

2. 芦名定道、「現代日本における宗教哲学の構築をめざして」、『キリスト教学研究室紀要』、第5号、2017、1-20

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/219576>

<https://doi.org/10.14989/219587>

3. 芦名定道、「東アジア・キリスト教研究の可能性 現状と課題」、『アジア・キリスト教・多元性』、第15号、2017、169-180

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/224790>

<https://doi.org/10.14989/224794>

4. 芦名定道、「宗教哲学にとっての脳神経科学の意義」、『宗教哲学研究』、No.35、2018、1-12

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sprj/35/0/_contents/-char/ja

5. 芦名定道、「「科学技術の神学」系とは何か」、『福音と世界』、2018.4、54-59

6. 芦名定道、「生命の神学1 脳死・臓器移植の問題を検証する」、『福音と世界』、2018.5、56-61

7. 芦名定道、「生命の神学2 遺伝子工学の挑戦」、『福音と世界』、2018.6、54-59

8. 芦名定道、「生命の神学3 環境倫理と動物倫理」、『福音と世界』、2018.7、54-59

9. 芦名定道、「心の神学1 脳・心・キリスト教神学」、『福音と世界』、2018.9、60-65

10. 芦名定道、「心の神学2 心を科学する時代」、『福音と世界』、2018.10、60-65

11. 芦名定道、「原子力の神学 原爆と原発」、『福音と世界』、2018.11、60-65

12. 芦名定道、「文明論を神学する 都市とキリスト教」、『福音と世界』、2018.12、60-65

13. 芦名定道、「キリスト教思想と科学論」、『福音と世界』、2019.1、54-59

14. 芦名定道、「進化論の問題」、『福音と世界』、2019.2、54-59

15. 芦名定道、「現代科学とキリスト教 人格概念の再考」、『キリスト教学研究室紀要』、第7号、2019年、1-15

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/240995>

<https://doi.org/10.14989/241009>

〔学会発表〕(計4件)

1. 芦名定道、「脳科学と宗教倫理の接点を探る」、宗教倫理学会・2016年度研究プロジェクト・研究会、2016年6月24日(木)、キャンパスプラザ京都
2. 芦名定道、「東アジアキリスト教交流史研究の地平 現状と課題の分析より」、東アジア交流史研究会・ワークショップ in 立命館大学茨木キャンパス、2017年1月21日(土)、立命館大学茨木キャンパスB棟4階研究会室1
3. 芦名定道、「フクシマ以後のキリスト教思想の動向から」、京都哲学会・公開講演会、2018年11月3日(土)、京都大学文学部校舎・第3講義室
4. 芦名定道、「宗教にとって科学技術とは何か? 人格概念の再考のために」、日本学術会議哲学委員会主催公開シンポジウム・「科学技術の進展と人間のアイデンティティ 哲学・倫理・思想・宗教からの問いかけ」、2018年11月23日(金)、日本学術会議講堂

〔図書〕(計2件)

1. 芦名定道、三恵社、『東アジア・キリスト教の現在』、2018、103
2. 芦名定道、三恵社、『東アジア・キリスト教研究とその射程 無教会キリスト教を中心に』、2019、129

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「自然神学・宗教哲学・自然哲学」：<http://logosoffice.blog90.fc2.com/>

「現代キリスト教思想の諸問題」：<http://agape009.blog.fc2.com/>

6. 研究組織

(1)研究分担者：なし

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）:

(2)研究協力者：なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。